

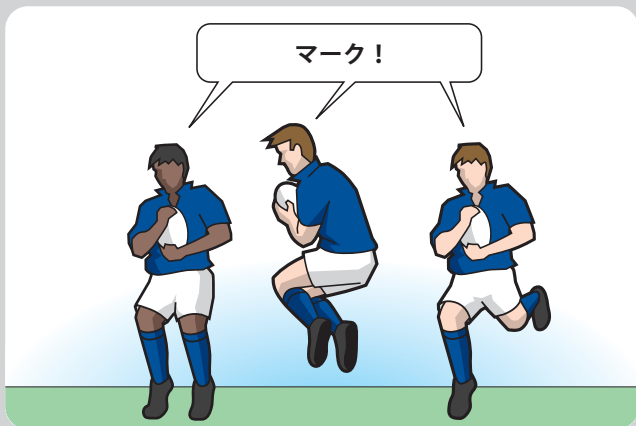
定義

マークとは、自陣22メートルライン上、またはその後方で、相手側のキックしたボールを直接明確にキャッチすると同時に、「マーク」と叫んで行われるものである。なお、片足を自陣22メートルライン上、またはその後方に置いているプレーヤーは、22メートル内にいるとみなされる。マークはキックオフからはできない。ドロップアウトを除く、リスタートキック（試合再開のキック）においても認められない。

マークに対してはキックが与えられる。キックはマークの地点で行う。

キャッチする前にボールがゴールポストまたはクロスバーに触れても、プレーヤーはマークすることができる。

防御側のプレーヤーはインゴール内でマークをすることができる。



マーク

第18条 マーク



18.1 マーク後

レフリーは直ちに笛を吹き、マークしたプレーヤーにキックを与える。

18.2 与えられる地点

キックはマークの地点で与えられる。

18.3 行われる地点

キックはマークの地点、またはマークの後方、マークを通る線上で行う。

18.4 キッカー

キックはマークしたプレーヤーが行う。そのプレーヤーが1分以内にキックすることができない場合は、マークの地点でスクラムを組み、マークした側がボールを入れる。マークがインゴールにある場合は、マークを通る線上ゴールラインから5メートルの地点でスクラムを組む。

18.5 キックの方法

第21条「フリーキック」の規定が適用される。

18.6 キックに代るスクラム

- (a) マークした側はスクラムを選択することができる。
- (b) **スクラムの地点**：マークがフィールドオブプレー内であれば、スクラムはマークの地点となる。ただしタッチラインから5メートル以内では組まない。マークがインゴールにある場合、スクラムはマークを通る線上ゴールラインから5メートルの地点で行う。ただしタッチラインから5メートル以内では組まない。マークした側がボールを入れる。
- (c) **ボールの投入者**：マークした側のチームの選手が、ボールを投入する。

18.7 ペナルティキックが与えられる場合

- (a) 相手側プレーヤーは、オンサイド、オフサイドにかかわらず、レフリーが笛を吹いた後にマークしたプレーヤーにチャージしてはならない。
罰：ペナルティキック
- (b) **ペナルティキックの地点**：反則をしたプレーヤーがオンサイドである場合、ペナルティキックは反則の地点で与えられる。反則をしたプレーヤーがオフサイドであれば、ペナルティキックは第11条で述べるオフサイドライン上の地点で行われる。反則をしなかった側のいずれのプレーヤーがペナルティキックを行ってもよい。
- (c) **ペナルティキック**：攻撃側ではないチームのどのプレーヤーも、ペナルティキックを行ってよい。